

混合交通を観察する
DOCUMENT
series—197
Eye

●信号機のない交差点で自転車の一時停止、および左右確認状況を観察する
1時間に交差点を走行した自転車利用者485人中
停止線の直前で一時停止を行った自転車利用者は9人(1.9%)

●WHY

自転車利用者は停止線の直前で一時停止しているか?

近年、自転車に関係する交通事故が増加している。平成17年の自転車乗車中の死傷者数は、18万5532名で、10年前の1.34倍となっている。

自転車の利用者は子どもから高齢者まで幅広く、通勤・通学や買い物などの短距離の移動には便利な乗り物だ。しかし、「安全不確認」や「無灯火」などが原因で歩行者との接触事故も多く、自転車

と歩行者の事故は平成17年では2576件と、この10年間で4.58倍に増加した。自転車に関係する交通事故は、住宅街や駅周辺などの生活道路を中心に市町村道で多く発生している。

東京・板橋区の地下鉄の駅周辺にある信号機のない交差点で、自転車の一時停止および左右確認について観察した。

●WATCHING

スーパリーの安売り表示を見ながら脇見運転する自転車

観察場所は、東京・板橋区にある地下鉄「志村三丁目」駅から100mほどのところにある信号機のない小さな交差点。4方向ともに道路上に「とまれ」の表示がペイントされている。横断歩道が2カ所。交差点のまわりにはスーパーや商店都営アパートなどの住宅があり、近くには中学校もある。駅周辺であることから歩行者もかなり多い。クルマは一方通行となっていて、宅配便などのクルマが時折進入している。

1時間の観察でこの交差点を走行した自転車利用者は合計485人。そのうち小学生以下は44人、中学生・高校生41人、成人335人、高齢者は65人であった。一時停止を行った(停止線の直前で停止した)自転車利用者は、485人中9人(1.9%)だった。

成人女性の1人は、停止線の手前で一時停止した。観察場所、東京都板橋区志村3丁目付近。観察日/6月14日(水曜日)。天候/曇。観察時間/17:00~18:00。観察者/5名。



保護者の声掛けにより、一時停止をしてから道路を横断する小学生



左右の安全確認をせず、自分の向かう方向だけを見て左折する自転車利用者



自転車利用者が交差点内で立ち止まり、友達と会話をしている

●PROPOSE

停止線の直前できちんと一時停止を行う

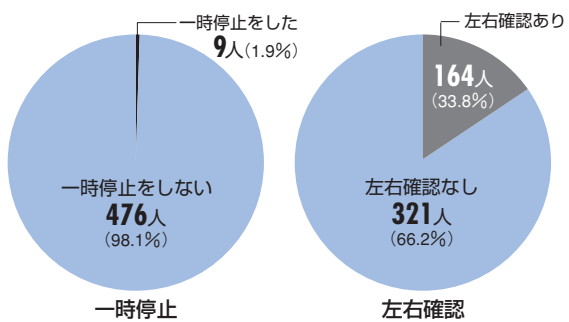
自転車は免許のいらぬ手軽な乗り物で、子どもから高齢者までと利用者の年齢層も幅広い。したがって、自転車利用者の中には交通ルールをほとんど知らない人もいようである。自転車利用者のちょっとした判断ミスや油断が、歩行者や他の自転車に危害を加える危険性は十分にある。また、クルマに接触した場合には、自転車利用者自身が被害者となってしまう。

自転車は、クルマやバイクと同じ車両であるということを理解し、歩行者に配慮した走行が必要だ。また、停止線の直前ではきちんと一時停止し、左右の安全確認をしっかりと行うことが大切である。交差点付近では接触や衝突事故が起こりやすいことを再認識して、さらには交通の状況を見定めて、交通ルールを守って安全で快適な自転車利用を心がけてほしい。



歩行者と接触しそうになる様子も観察された

■信号機のない交差点での自転車の一時停止、および左右確認状況



	一時停止をした		一時停止をしない		小計
	左右確認あり	左右確認なし	左右確認あり	左右確認なし	
小学生以下	2	0	7	35	44
中学生・高校生	0	0	9	32	41
成人	2	2	108	223	335
高齢者	3	0	33	29	65
小計	7	2	157	319	485

※小学生以下(12歳以下)、中学生・高校生(13~18歳)、成人(19~64歳)、高齢者(65歳以上)の判断は観察者の見解による